

令和5年

# 火災・救急の概況

火 災

17件

大洲市 13件  
内子町 4件

救 急

3,526件

大洲市 2,594件  
内子町 926件  
管轄外 6件



大洲地区広域消防事務組合

【大洲市・内子町】



# 火災の概況

## 1 火災概要（1表）

令和5年中に組合管内で発生した火災は17件で、建物焼損棟数19棟、建物焼損床面積1,022㎡、林野焼損面積1,328a、死者数1人、負傷者数4人、り災世帯数10世帯、り災人員26人、損害額226,916千円である。

前年と比較すると、死者数は1人減少している。出火件数については16件減少、焼損棟数は1棟減少、建物焼損床面積は1,405㎡減少、林野焼損面積は1,300a増加、り災世帯数は変わりなく、り災人員は6人増加、損害額は128,916千円増加している。

## 2 出火件数

出火件数は17件で、前年と比べて16件減少しており、1ヶ月あたり約1.4件の割合で火災が発生している。

### (1) 市町別出火件数（2・3表）

市町別出火件数は、大洲市13件（内訳：大洲11件、長浜1件、肱川1件、河辺0件）、内子町4件（内訳：内子0件、五十崎1件、小田3件）である。

### (2) 火災種別（2・4・10表）

火災種別にみると、建物火災が9件（全火災の約52.9%）で最も多く、その他の火災が5件（約29.4%）、車両火災が2件（約11.8%）、林野火災が1件（約5.9%）である。

なお、建物火災9件を用途別にみると、住宅（併用含む）が4件、作業場・工場が3件、倉庫が1件、共同住宅が1件である。

### (3) 四季別出火件数（5表）

四季別出火件数は、春季における火災が9件、秋季、冬季が各4件、夏季が0件の順となっている。

## 3 出火率（6表）

出火率（人口1万人あたりの出火件数）は3.09件であり、令和4年と比べると2.80件減少している。

## 4 損害額（1・7表）

損害額は、226,916千円で前年より128,916千円増加している。内訳は、建物の損害額が大半を占めている。また、1件あたりの損害額は、約13,348千円であり、前年の2,970千円と比較すると10,378千円増加している。

## 5 出火原因（8表）

出火原因別にみると、出火件数17件のうち、「火のついたゴミ」と「不明」が各3件で最も多く、その他の原因が各1件である。

## 6 初期消火対応（9表）

出火件数17件のうち初期消火を試みたものは15件あり、このうち初期消火の効果があつた火災は3件である。

また、消火器具別に効果のあつたものは「消火器」、「水道、浴槽等の水をかけた」、「その他」が各1件である。

## 7 死傷者（1・11表）

死傷者は、建物火災による死者が1人で、前年に比べ1人減少している。また、負傷者は前年と変わらず4人である。

## 8 まとめ

以上、令和5年中の火災概況であるが、昨年と比較すると出火件数が大幅に減少している。

出火原因については、「不明」を除き、「火のついたゴミ」が3件で最も多いことから、火気の取扱いや注意が不十分であつたことが考えられる。

また、本年は大規模な林野火災が発生し、当組合では、過去に例をみないほどの林野が焼損した。森林は火災などで失われると、その大切な機能が回復するまでには何十年もの年月と多大なコストを要することになる。

林野火災についても、人々の不注意によって起きることがほとんどであるため、住民に対して、火気を取り扱う際の消火用具の準備や、風の強い日や空気が乾燥している日には、より一層注意することを強く呼びかける必要がある。

建物火災については、例年、火災種別の中で最も多い。住宅火災による死傷者の低減や被害の軽減を図るため、効果的な初期消火を実施しなければならないが、初期消火を試みた15件のうち、効果があつたのは、わずか3件である。効果的な初期消火を行うためにも、各地域における自主防災組織等の協力を得て、住民を主体とした防火講習会や防災訓練等を行い、防火意識の更なる高揚を図るとともに、住宅用火災警報器の設置、維持管理を強く呼びかけていく必要がある。

※ 数値については、速報値です。

1表 火災の概況

区 分	単位	令和5年	令和4年	増減数
出 火 件 数	件	17	33	▲ 16
建 物	〃	9	14	▲ 5
林 野	〃	1	6	▲ 5
車 両	〃	2	1	1
船 舶	〃	0	0	0
航 空 機	〃	0	0	0
そ の 他	〃	5	12	▲ 7
焼 損 棟 数	棟	19	20	▲ 1
全 焼	〃	10	10	0
半 焼	〃	1	2	▲ 1
部 分 焼	〃	7	3	4
ぼ や	〃	1	5	▲ 4
建物焼損床面積	m <sup>2</sup>	1,022	2,427	▲ 1,405
建物焼損表面積	m <sup>2</sup>	285	25	260
林野焼損面積	a	1,328	28	1,300
死 者	人	1	2	▲ 1
負 傷 者	〃	4	4	0
30日死者	〃	0	0	0
り 災 世 帯 数	世帯	10	10	0
全 損	〃	4	4	0
半 損	〃	1	1	0
小 損	〃	5	5	0
り 災 人 員	人	26	20	6
損 害 額	千円	226,916	98,000	128,916
建 物	〃	219,196	94,955	124,241
林 野	〃	5,713	79	5,634
車 両	〃	1,268	1,393	▲ 125
船 舶	〃	0	0	0
航 空 機	〃	0	0	0
そ の 他	〃	739	1,573	▲ 834
爆発損害額	千円	0	0	0

※ ▲は減

2表 市町別火災状況

区分 市町別	火災種別						焼損面積			死傷者			焼損棟数	り災世帯数	損害額(千円)	
	合計	建物	林野	車両	船舶	その他	建物床面積(m <sup>2</sup> )	建物表面積(m <sup>2</sup> )	林野(a)	死者	負傷者	30日死者			総額	うち 建物損害
大洲	11	6	0	2	0	3	750	169	3	1	1	0	103,137	101,739		
長浜	1	0	1	0	0	0	0	0	1,325	0	1	0	5,713	0		
肱川	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		
河辺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
小計	13	6	1	2	0	4	750	169	1,328	1	2	0	108,850	101,739		
内子	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
五十崎	1	1	0	0	0	0	116	0	0	0	1	0	5,347	4,738		
小田	3	2	0	0	0	1	156	116	0	0	1	0	112,719	112,719		
小計	4	3	0	0	0	1	272	116	0	0	2	0	118,066	117,457		
合計	17	9	1	2	0	5	1,022	285	1,328	1	4	0	226,916	219,196		

建物損害額 = 建物損害額 + 収容物損害額

3表 市町別月別出火状況

年別・市町別	月別												合計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
令和5年	大洲	2	1	2	1	1			1	1	1	1	11
	長浜										1		1
	肱川			1									1
	河辺												0
	内子												0
	五十崎			1									1
	小田			1	1	1							3
合計	2	1	5	2	2	0	0	0	1	1	2	1	17

年別・市町別	月別												合計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
令和4年	大洲	1		3	3	2	2	2			1		14
	長浜			1	2		1	2			1	1	8
	肱川												0
	河辺	1											1
	内子	2		1	1		1					1	6
	五十崎									1			1
	小田	1								1	1		3
合計	5	0	5	6	2	0	4	4	0	2	3	2	33

4表 火災種別出火件数の構成割合（％）

区 分	令和5年	令和4年
建 物 火 災	52.9	42.4
林 野 火 災	5.9	18.2
車 両 火 災	11.8	3.0
船 舶 火 災	0.0	0.0
航 空 機 火 災	0.0	0.0
そ の 他 の 火 災	29.4	36.4
合 計	100.0	100.0

5表 四季別出火状況

年 別 月 別	令和5年				令和4年			
	出火 件数 (件)	割合 (%)	損害額 (千円)	割合 (%)	出火 件数 (件)	割合 (%)	損害額 (千円)	割合 (%)
春 季 3月～5月	9	53.0	143,020	63.0	13	39.4	72,179	73.7
夏 季 6月～8月	0	0.0	0	0.0	8	24.2	11,562	11.8
秋 季 9月～11月	4	23.5	9,843	4.4	5	15.2	4,458	4.5
冬 季 12月～2月	4	23.5	74,053	32.6	7	21.2	9,801	10.0
合 計	17	100.0	226,916	100.0	33	100.0	98,000	100.0

※ 割合（％）については、数字を調整している。

6表 出火率・出火件数・人口・世帯数調

区 分		実 数		増減数	
		令和5年	令和4年		
大洲地区 広域消防 事務組合	出 火 率	3.09	5.89	▲ 2.80	
	出 火 件 数	17	33	▲ 16	
	うち建物火災	9	14	▲ 5	
	人 口	54,949	55,986	▲ 1,037	
	世 帯 数	26,664	26,694	▲ 30	
大 洲 市	大 洲	出 火 率	3.44	4.32	▲ 0.88
		出 火 件 数	11	14	▲ 3
		うち建物火災	6	4	2
		人 口	31,947	32,420	▲ 473
	世 帯 数	15,536	15,473	63	
	長 浜	出 火 率	1.79	13.88	▲ 12.09
		出 火 件 数	1	8	▲ 7
		うち建物火災	0	3	0
		人 口	5,597	5,763	▲ 166
	世 帯 数	2,935	2,971	▲ 36	
	肱 川	出 火 率	5.57	0	5.57
		出 火 件 数	1	0	1
		うち建物火災	0	0	0
		人 口	1,794	1,839	▲ 45
	世 帯 数	877	888	▲ 11	
	河 辺	出 火 率	0	17.92	▲ 17.92
出 火 件 数		0	1	▲ 1	
うち建物火災		0	0	0	
人 口		529	558	▲ 29	
世 帯 数	329	341	▲ 12		
内 子 町	内 子	出 火 率	0	7.04	▲ 7.04
		出 火 件 数	0	6	▲ 6
		うち建物火災	0	4	▲ 4
	人 口	8,388	8,520	▲ 132	
	世 帯 数	3,867	3,877	▲ 10	
	五十崎	出 火 率	2.07	2.02	0.05
		出 火 件 数	1	1	-
		うち建物火災	1	1	-
	人 口	4,822	4,945	▲ 123	
	世 帯 数	2,112	2,117	▲ 5	
	小 田	出 火 率	16.02	15.46	0.56
		出 火 件 数	3	3	-
うち建物火災		2	2	-	
人 口		1,872	1,941	▲ 69	
世 帯 数	1,008	1,027	▲ 19		

※ ▲は減

※ 人口は各年12月31日現在の住民基本台帳によるもの。



7表 出火件数及び損害額の推移

区分 年別	出火件数 (件)	損 害 額 (千円)	1件あたりの損害額 (千円)
平成26年	27	33,803	1,252
平成27年	26	21,300	819
平成28年	24	30,829	1,285
平成29年	27	53,243	1,972
平成30年	26	38,349	1,475
令和元年	14	29,927	2,138
令和2年	25	67,661	2,706
令和3年	29	66,708	2,300
令和4年	33	98,000	2,970
令和5年	17	226,916	13,348

8表 出火原因別件数及び損害額

区 分	出火件数 (件)	割合 (%)	損害額 (千円)	割合 (%)
火のついたゴミ	3	17.66	0	0.00
電子レンジ	1	5.88	354	0.16
風呂かまど	1	5.88	1,833	0.81
排気管	1	5.88	260	0.11
たき火	1	5.88	0	0.00
石油・ガソリン ストーブ	1	5.88	4,429	1.95
ゴミ焼却炉	1	5.88	0	0.00
その他の高温で熱せ られたもの	1	5.88	108,290	47.72
ライター	1	5.88	1,158	0.51
プリーザー	1	5.88	4,128	1.82
たばこ	1	5.88	5,713	2.52
電気ストーブ	1	5.88	2	0.00
不 明	3	17.66	100,749	44.40
合 計	17	100.00	226,916	100.00

※ 割合 (%) については、数字を調整している。

9表 初期消火の対応状況

効果	消火器具別								合計
	屋外消火栓設備	消火器	寝具、衣類等をかけた	水道、浴槽等の水をかけた	水バケツ	もみ消した	その他		
効果有	0	1	0	1	0	0	1	3	
効果無	1	2	1	3	2	1	2	12	

10表 建物火災の火元用途別の出火状況

用途別 年別	住宅 (併用含む)	作業場 工場	倉庫 納屋 物置	共同住宅	その他	合計
令和5年	4	3	1	1	0	9
令和4年	7	3	2	1	1	14

11表 死傷者の区分

区分	死者	負傷者	30日死者
消防吏員	0	0	0
消防団員	0	0	0
応急消火義務者	1	4	0
消防協力者	0	0	0
その他の者	0	0	0
合計	1	4	0

※ 30日死者とは、火災による負傷後48時間以上30日以内の死者。

次のページから救急の概況

## 救急車は地域を守る セーフティネット



全国救急受診アプリ「Q助」

消防庁では、住民による緊急度判定を支援し、利用できる医療機関や受信手段の情報を提供するため全国版救急受診アプリ（愛称「Q助」）の提供を開始しました。

スマートフォン版（Apple、Google）、Web版があります。

[https://www.fdma.go.jp/neuter/topics/filedList9\\_6/kyukyu\\_app.html](https://www.fdma.go.jp/neuter/topics/filedList9_6/kyukyu_app.html)

※スマートフォン版のダウンロード容量は2MBで、使用するときの通信料はかかりません。

## 令和5年の救急概況

### 1 救急業務状況（1表）

令和5年中における救急業務の実施状況は、出場件数3,526件（前年比79件増）、搬送人員3,299人（前年比51人増）であり、前年と比較して出場件数、搬送人員ともに増加している。

また、組合に配置している救急車6台すべてが高規格救急車であり、すべてに救急救命士が出動している。

### 2 事故種別救急概要（2・3表）

事故種別出場件数は、急病2,128件、その他（主に転院搬送）613件、一般負傷545件で出場件数の9割以上を占めている。前年と比較すると、その他42件、急病41件、交通事故5件、自損行為2件、水難1件が増加している。

### 3 市町別救急業務状況（4表）

市町別救急件数は、大洲市が全体の73.6%（2,594件）、内子町が26.3%（926件）、管轄外が0.2%（6件）である。

内訳は、大洲2,040件、長浜396件、肱川110件、河辺48件、内子572件、五十崎233件、小田121件、管轄外6件である。

### 4 時間帯別救急状況（5表）

時間帯別の救急件数は、最も多い時間帯が午前8時から10時の間の525件であり、逆に少ない時間帯は、午前2時から4時の96件である。午前と午後で比較すると午前が1,588件、午後が1,938件と午後の方が件数が多い。

### 5 月別曜日別救急状況（6表）

月別の救急件数は、8月の373件が最も多く（前年は同月の359件）、最も少ない月は3月と5月の253件（前年は11月の244件）である。

また、曜日別の救急件数は、月曜日の611件が最も多く（前年も月曜日の595件）、最も少ないのは水曜日の431件（前年は木曜日の463件）である。

## 6 応急処置状況（7表）

救急隊員が行った応急処置の状況は、血中酸素飽和度測定、血圧測定、その他の応急処置（検温等）、保温の処置が多い。

救急救命士が行う救急救命処置は、器具を使用した気道確保のうち、ラリソゲアルマスク等を用いた気道確保35件、気管挿管10件を実施。心肺機能停止後の静脈路確保31件、うち薬剤投与を10件実施している。

また、平成28年6月1日から処置範囲が拡大された処置のうち、心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液は23件、血糖測定は42件、低血糖発作症例へのブドウ糖溶液投与は8件である。

## 7 医療機関別搬送人員状況（8表）

収容医療機関の状況は、搬送人員の77.9%（2,571人）を管内の医療機関に搬送しており、うち、99.1%（2,548人）は救急告示病院に搬送している。

また、管外医療機関への搬送は728人であり、その47.7%に当たる347人の事故種別はその他（主に転院搬送）によるものである。

## 8 市町別人口割救急出場状況（9表）

市町別人口割救急状況は、人口1,000人当りの救急発生件数を比較すると、最も発生件数が高いのは河辺の91件、次いで長浜71件、内子68件、小田65件、大洲64件、肱川61件であり、最も低いのは五十崎48件である。

## 9 高齢者事故種別搬送人員状況（10表）

高齢者（「年齢65歳以上の者」をいう。）に関する救急状況は、搬送人員2,480人で昨年に比べて90人増加しており、全搬送人員の75.2%を占めている。

また、事故種別で見ると、急病1,512人、その他（主に転院搬送）468人、一般負傷419人の順であり、交通事故は66人と前年と比較し6人減少している。

## 10 高齢者市町別疾病分類搬送人員状況（11表）

高齢者における急病の疾病分類は、その他を除くと呼吸系の183人（12.3%）が最も多く、次いで心疾患が166人（11.2%）、消化系139人（9.4%）、脳疾患117人（7.9%）の順である。

## 1.1 まとめ

以上、令和5年中の救急概況であるが、令和5年の救急出場件数が過去最多を更新し、連日の猛暑による熱中症の危険が高まる時期や時間帯に救急要請が多くなっている。さらに、近年は適切な医療機関へ搬送する手段としてドクターヘリの要請件数も増加している。

さらに、搬送人員も増加傾向であり、特に高齢者の割合が高く、今後も増加することが予想されるため、重症化するまでにかかりつけ医への受診を呼びかけていく必要がある。また、小児の搬送においても管外病院への搬送が半数を占めているため、搬送時間が長時間になり、傷病者の負担が増加する傾向にある。

以上のことから、住民に対して救急車の適正利用について、救命講習会や広報媒体等を活用し#8000や#7119の利用を呼びかけるとともに、医療機関との研修会を通して消防と医療機関の連携を強化し、多くの命が救えるよう救命率の向上に努めたい。

※ 数値については、速報値です。

空 白

1表 年別救急業務状況

区分 年別	出場件数						搬送人員					
	合計	大洲消防署本署	長浜支署	川上支署	内子消防署本署	小田出張所	合計	大洲消防署本署	長浜支署	川上支署	内子消防署本署	小田出張所
令和5年	3,526	1,974	399	206	791	156	3,299	1,850	362	197	753	137
令和4年	3,447	1,942	402	221	740	142	2,480	1,327	289	169	581	114
昨年比増減	79	32	▲3	▲15	51	14	51	8	▲16	▲12	63	8
							90	6	▲2	1	69	16

※ ▲は減

下段の数値は65歳以上

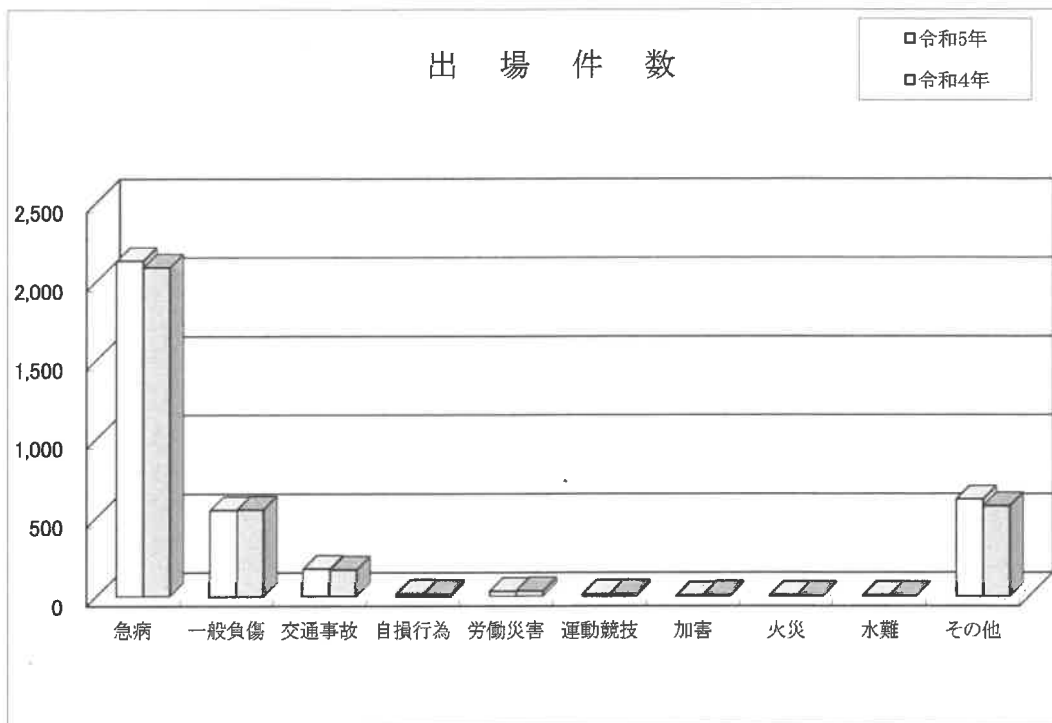


2表 事故種別の救急概要

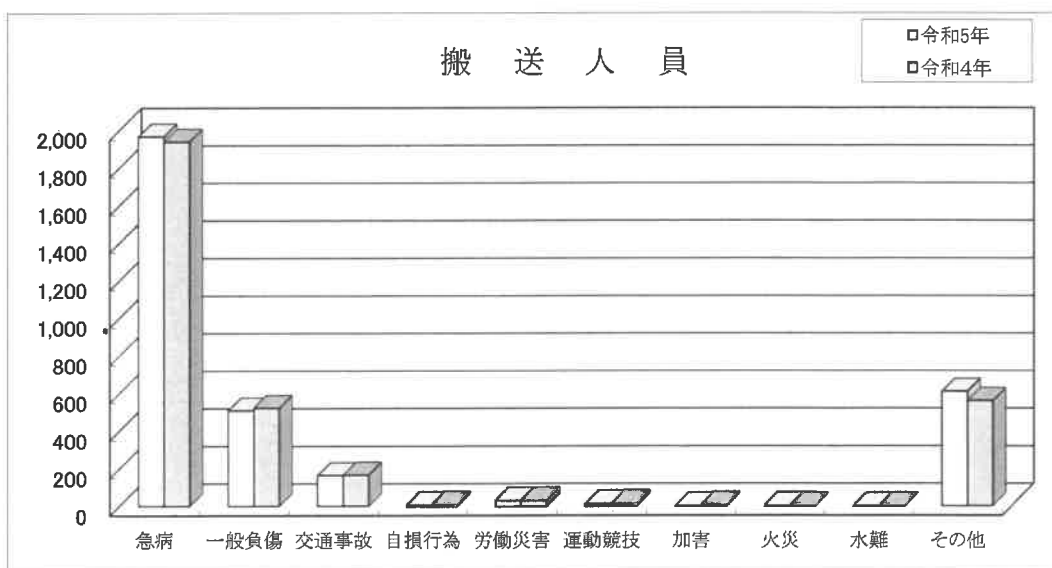
区分 事故種別	令和5年																	
	組					合												
	出場件数		搬送人員		増減	大洲1		大洲2		長浜		川上		内子		小田		
	令和5年	令和4年	令和5年	令和4年		出場件数	搬送人員	出場件数	搬送人員	出場件数	搬送人員	出場件数	搬送人員	出場件数	搬送人員	出場件数	搬送人員	
急病	2,128	2,087	41	1,967	1,939	28	922	848	192	178	244	275	123	115	515	494	101	88
一般負傷	545	548	▲3	508	522	▲14	212	195	40	38	74	78	38	37	138	129	39	35
交通事故	172	167	5	162	165	▲3	74	62	24	27	22	20	4	4	42	40	8	7
自損行為	16	14	2	5	9	▲4	7	1	1	1	3	3	1	1	4	1	0	0
労働災害	30	33	▲3	30	30	0	14	14	4	4	0	0	2	2	8	8	2	2
運動競技	13	14	▲1	13	14	▲1	9	9	1	1	0	0	0	0	1	1	2	2
加害	1	6	▲5	1	6	▲5	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
火災	4	4	0	3	2	1	0	0	0	0	1	1	0	0	2	1	1	1
水難	4	3	1	1	1	0	3	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
その他	613	571	42	609	560	49	271	271	200	200	19	20	38	38	81	79	3	2
合計	3,526	3,447	79	3,299	3,248	51	1,512	1,401	462	449	362	399	206	197	791	753	156	137

※ ▲は減

3表 事故種別出場件数・搬送人員



	急病	一般負傷	交通事故	自損行為	労働災害	運動競技	加害	火災	水難	その他
令和5年	2,128	545	172	16	30	13	1	4	4	613
令和4年	2,087	548	167	14	33	14	6	4	3	571

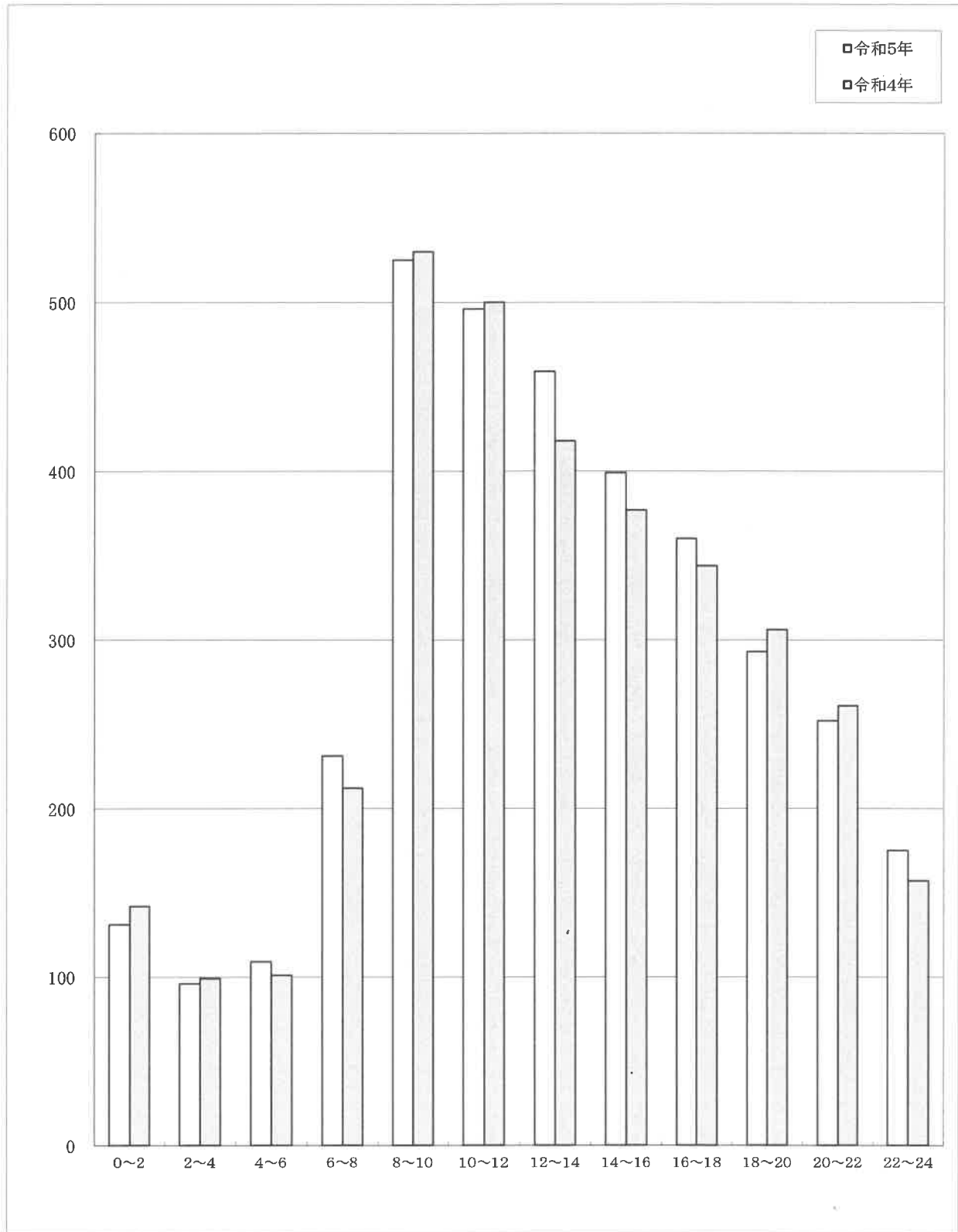


	急病	一般負傷	交通事故	自損行為	労働災害	運動競技	加害	火災	水難	その他
令和5年	1,967	508	162	5	30	13	1	3	1	609
令和4年	1,939	522	165	9	30	14	6	2	1	560

4表 市町別救急業務状況

市町 事故種別	組合	大 洲 市				内 子 町			管轄外
		大 洲	長 浜	肱 川	河 辺	内 子	五十崎	小 田	
	出場件数	出場件数	出場件数	出場件数	出場件数	出場件数	出場件数	出場件数	出場件数
	搬送人員	搬送人員	搬送人員	搬送人員	搬送人員	搬送人員	搬送人員	搬送人員	搬送人員
急 病	2,128	1,130	275	79	32	360	177	74	1
	1,967	1,046	243	72	32	341	170	63	0
一 般 負 傷	545	252	78	28	10	105	39	33	0
	508	232	73	27	10	99	38	29	0
交 通 事 故	172	95	23	3	1	32	6	7	5
	162	90	25	3	1	31	6	5	1
自 損 行 為	16	9	3	0	1	1	2	0	0
	5	2	1	0	1	1	0	0	0
労 働 災 害	30	20	0	0	0	6	2	2	0
	30	20	0	0	0	6	2	2	0
運 動 競 技	13	10	0	0	0	0	1	2	0
	13	10	0	0	0	0	1	2	0
加 害	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	1	0	1	0	0	0	0	0	0
火 災	4	2	0	0	0	0	1	1	0
	3	1	0	0	0	0	1	1	0
水 難	4	3	1	0	0	0	0	0	0
	1	1	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他	613	519	15	0	4	68	5	2	0
	609	518	15	0	4	66	5	1	0
合 計	3,526	2,040	396	110	48	572	233	121	6
	3,299	1,920	358	102	48	544	223	103	1

5表 時間帯別救急出場件数



時間	0~2	2~4	4~6	6~8	8~10	10~12	12~14	14~16	16~18	18~20	20~22	22~24
令和5年	131	96	109	231	525	496	459	399	360	293	252	175
令和4年	142	99	101	212	530	500	418	377	344	306	261	157

6表 月別曜日別救急出場状況

曜日 月	日	月	火	水	木	金	土	合計
1月	46	68	52	40	40	42	36	324
2月	41	43	31	29	41	44	39	268
3月	21	44	41	37	27	57	26	253
4月	47	45	38	34	33	47	38	282
5月	27	51	46	31	40	27	31	253
6月	38	56	37	32	45	32	36	276
7月	52	61	36	39	41	33	42	304
8月	42	64	56	53	64	52	42	373
9月	40	43	46	36	41	59	59	324
10月	46	50	41	21	35	34	41	268
11月	34	41	39	43	45	25	35	262
12月	58	45	48	36	40	61	51	339
合計	492	611	511	431	492	513	476	3,526

7表 救急隊員が行った応急処置の状況

事故種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計	
応急処置対象人員 処置項目	1,967	162	508	662	3,299	
止血	8	17	82	16	123	
固定	50	67	172	30	319	
人工呼吸	24	2	4	7	37	
心マッサージ	29	1	1	4	35	
うち自動	16	0	0	3	19	
心肺蘇生	49	3	2	8	62	
うち自動	8	1	2	3	14	
酸素吸入	535	17	38	230	820	
気道確保	84	4	7	12	107	
うち経鼻	6	0	1	2	9	
うち異物除去	1	0	0	0	1	
ラリゲアルマスク等	31	1	1	2	35	
気管挿管	4	0	2	4	10	
保温	1,465	93	367	538	2,463	
被覆	4	27	64	15	110	
在宅療法継続	5	0	0	0	5	
点滴処置	1	0	0	0	1	
外傷処置	1	0	0	0	1	
その他	4	0	0	0	4	
除細動	1	0	0	0	1	
静脈路確保	心肺機能停止前	7	4	10	2	23
	心肺機能停止後	26	1	1	3	31
	ブドウ糖投与	10	0	0	0	10
血糖測定	39	1	1	1	42	
ブドウ糖溶液投与	8	0	0	0	8	
薬剤投与	5	0	0	5	10	
その他の応急処置	1,948	153	503	649	3,253	
血圧測定	1,881	156	496	649	3,182	
聴診器による聴取	311	22	43	38	414	
血中酸素飽和度測定	1,910	160	502	650	3,222	
心電図	699	20	50	201	970	
合計	9,098	747	2,342	3,057	15,247	

8表 事故種別医療機関別搬送人員状況

告示開設者別	事故種別		急病		交通事故		一般負傷		その他		合計	
	うち管内	うち管外	うち管内	うち管外	うち管内	うち管外	うち管内	うち管外	うち管内	うち管外	うち管内	うち管外
救急告示医療機関	国立	4	4	3	3	3	3	3	25	25	35	35
	公立	736	248	59	11	201	58	235	159	159	1,231	476
	公立的	8	8	2	2			74	74	74	84	84
	私病診療所	1,172	2	92	1	296	3	255	16	16	1,815	22
	計	1,920	262	156	17	500	64	589	274	274	3,165	617
その他の医療機関	国立	2	2					2	2	2	4	4
	公立	19	19	6	6	5	4	67	67	97	96	96
	公立的	4	4							4	4	4
	私病診療所	2	1			1	1	3	3	6	5	5
	計	20	1			2		1	1	23	2	2
	計	47	27	6	6	8	5	73	73	134	111	111
計	国立	6	6	3	3	3	3	27	27	39	39	39
	公立	755	267	65	17	206	62	302	226	1,328	572	572
	公立的	12	12	2	2			74	74	88	88	88
	私病診療所	1,174	3	92	1	297	4	258	19	1,821	27	27
	計	20	1			2		1	1	23	2	2
	計	1,967	289	162	23	508	69	662	347	3,299	728	728
その他の場所	接骨院											
	その他											
	計											
	合計	1,967	289	162	23	508	69	662	347	3,299	728	728

9表 市町別人口割救急出場状況

(人口は12月末現在)

市町	区分	人口 (人)	出場件数 (件)	搬送人員 (人)	人口1,000人当りの発生件数(件)
大洲市	大洲	31,947	2,040	1,920	64
	長浜	5,597	396	358	71
	川脰	1,794	110	102	61
	河辺	529	48	48	91
内子町	内子	8,388	572	544	68
	五十崎	4,822	233	223	48
	小田	1,872	121	103	65
組合管内		54,949	3,520	3,298	64
管轄外			6	1	
合計			3,526	3,299	



10表 発生場所別高齢者事故種別搬送人員状況

市町	区分	事故種別											
		火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	合計
大洲市	大洲	1	0	1	37	6	0	190	0	0	749	394	1,378
	長浜	0	0	0	7	0	0	58	1	202	15	284	
	肱川	0	0	0	1	0	0	24	0	67	0	92	
	河辺	0	0	0	1	0	0	9	0	29	4	43	
内子町	内子	0	0	0	14	2	0	80	0	276	50	423	
	五十崎	0	0	0	1	1	0	32	0	136	4	174	
	小田	1	0	0	4	0	0	26	0	53	1	85	
その他(管轄外)		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
合計		2	0	1	66	9	0	419	1	2	1,512	468	2,480

※ 高齢者～年齢65歳以上の者をいう。

11表 高齢者市町別疾病分類搬送人員状況

市町	疾病分類		脳疾患	心疾患	消化系	呼吸系	精神系	感覚系	泌尿系	新生物	その他	合計
大洲市	大洲		63	77	67	72	9	44	36	18	343	729
	長浜		12	29	18	29	2	11	16	6	77	200
	肱川		2	7	6	11	0	5	3	2	31	67
	河辺		2	5	5	4	0	0	2	1	10	29
内子町	内子		18	27	26	33	4	11	16	7	128	270
	五十崎		12	13	8	28	0	4	4	6	58	133
	小田		8	8	9	6	0	1	3	0	20	55
合計			117	166	139	183	15	76	80	40	667	1,483

※ 高齢者～年齢65歳以上の者をいう。